

<p>研究代表者</p>	<p>所属学系・職名 人間・生活学系（旧人間・心理学系）教授 氏 名 谷 雅 泰</p>
<p>研究課題</p>	<p>デンマークにおける国民学校改革の研究 Study on the Reform of the Elementary and Junior high schools in Denmark</p>
<p>成果の概要</p>	<p>2012 年末にデンマークの中道左派政権により提起された国民学校改革は、同国の PISA の成績の不振などを理由に学力を向上させることを目的とし、授業時間増、それに伴う学校機能への社会教育機能の統合、授業改善、教員の質向上など多岐にわたる改革である。2013 年に与野党合意に至り、実際の学校現場ではすでにその方向で改革が始まっている。国民学校法が改正され、2014 年 8 月に実施となった。</p> <p>本研究においては、①国民学校を実際に訪問し、実際の変化について確かめること、②関係諸機関を訪問し改革の背景について探ること、③国民学校法の旧法（2013 年）と新法を翻訳して比較すること、の 3 点を行うこととした。</p> <p>①に関しては前年度訪問した Brøndby Strand 国民学校を再度訪問し、管理職へのインタビューと授業参観を行った。すでに先取的に改革の内容を実施していた学校だが、確かに新しい方向で改革が進められていることを確かめることができた。7 年生（日本では中学校 1 年に相当）の地理の授業を参観したが、グループワーク、動画の視聴、講義、個人のワークが適度に織り交ぜられていて授業者の意図を感じることができた。一方、生徒にとっては午後 3 時前後まで学校に拘束され、休憩時間も回数が少なく時間も短くなった上に身体活動重視の方針によって外遊びを事実上強制されるなど、負担が増えたと言えなくもない。</p> <p>そのなかで、放課後が短くなったことの影響はどのように出ているのだろうか。②の一環として、放課後のクラブのひとつで自然体験を行っている施設を訪問し、インタビューした。子どもたちが来る時間が減らされるので、学校のカリキュラムのなかの活動として売り込んでいるということで、新しい方向を模索しているようだが、いまのところ光が見えたとは言えないようだ。</p> <p>さて、②として、コペンハーゲン西地区若者支援センターを訪問し、責任者にインタビューを行った。若者支援センターは、EU に共通する課題である、後期中等教育からの「大量のドロップアウト」への対処を目的に 10 年前に設置された施設である。インタビューでは、2015 年 8 月に職業教育改革が予定されていて、今回の国民学校改革もそのなかの一環であるとのことである。責任者によれば、今回の改革の目的は職業教育の質保証だという。コペンハーゲンの西部近郊はいわゆる新興住宅地で移民も多く、生徒の成績も問</p>

成果の概要	<p>題を抱えている。自分たち（若者支援センターのカウンセラー）にとっては、成績のよい子どもたちは対象でなくただひたすら、よいパフォーマンスをあげられない子どもたちのために、「排除された人をなくしたい」という思いで仕事をしてきたのだ、と語りながら、今度の改革が肯定的に説明された。</p> <p>今回の一連の改革は、PISA に代表されるグローバリズムの流れのなかに位置づけることも可能だが、日本を含める他国と比較して何が異なるのか、特に職業教育の観点から今後考察していく予定である。</p> <p>③について、デンマーク語からの翻訳を委託したが、予算の関係で旧法のみとなった。引き続き新法の翻訳を委託し、比較検討する予定である。</p> <p>（平成 27 年 4 月現在）</p>
-------	--